

広告・メディア・エンタテインメント

1. 評価対象企業（21 社）

【広告・メディア】（10 社）

博報堂 D Y ホールディングス、電通グループ、フジ・メディア・ホールディングス、リクルートホールディングス、TBSホールディングス、日本テレビホールディングス、テレビ朝日ホールディングス、テレビ東京ホールディングス、KADOKAWA、東宝

【エンタテインメント】（11 社）

コーエーテクモホールディングス、ネクソン、ガンホー・オンライン・エンターテイメント、オリエンタルランド、セガサミーホールディングス、バンダイナムコホールディングス、任天堂、エイチ・アイ・エス、スクウェア・エニックス・ホールディングス、カプコン、コナミホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	15
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	15
計		10	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 33 名（所属先 24 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、説明会等およびフェア・ディスクロージャーにおいて内容変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 64.1 点（昨年度 67.3 点）、総合評価点の標準偏差は 7.9 点（昨年度同点）となった。なお、評価対象 21 社のうち 16 社が、昨年度に比べ総合評価点を下げた。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、広告・メディア（10 社）が 60.7 点（昨年度 63.1 点）、エンタテインメント（11 社）が 67.2 点（昨年度 70.6 点）となった。両業態共に下がったが、エンタテインメントの下げ幅がやや大きかった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 67％（昨年度 71％）、説明会等が 67％（昨年度 73％）、フェア・ディスクロージャーが 71％（昨年度

74%)、コーポレート・ガバナンス関連が 60% (昨年度 59%)、自主的情報開示が 53% (昨年度同率) となり、昨年度に比べ、3 分野が下がった。なお、自主的情報開示は昨年度に続き他の分野より低水準となった。

- ④ 評価項目について見ると、平均得点率 80%以上はなく、次の 2 項目（経営陣の IR 姿勢等、フェア・ディスクロージャーの中の各 1 項目）が、70%以上となった。
- (a) 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」(平均得点率 79% [昨年度同率]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)): 90%台 1 社・80%台 9 社・70%台 10 社・50%台 1 社)
- (b) 「IR 部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR 担当者とは有益なディスカッションができていますか」(平均得点率 72% [昨年度 78%]) (得点率: 80%台 3 社・70%台 11 社・60%台 5 社・50%台 2 社)
- ⑤ 一方、次の 2 項目(いずれも自主的情報開示)は、平均得点率が 50%台以下で、低水準となった。
- (a) 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会 (IR デーや記者発表会等を含む) を投資家向けにも設けており、それは有益でしたか」(平均得点率 47% [昨年度 44%]) (得点率: 20%台 4 社・30%台 3 社・40%台 6 社・50%台 4 社・60%台 2 社・70%台 1 社・90%台 1 社)
- (b) 「非財務情報 (ESG 情報、統合報告書等) の開示に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率 59% [昨年度 62%]) (得点率: 30%台 1 社・40%台 4 社・50%台 6 社・60%台 4 社・70%台 5 社・80%台 1 社)
- ⑥ なお、非財務情報関連の項目については、上記⑤ (b) のとおりであり、昨年度に比べ、半数以上の企業が得点率を下げた。

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 オリエンタルランド (ディスクロージャー優良企業 [3 回連続 3 回目]、総合評価点 79.4 点 [昨年度比 -2.1 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 83%)、説明会等 (80%)、自主的情報開示 (83%) が第 1 位、フェア・ディスクロージャー (74%)、コーポレート・ガバナンス関連 (69%) が第 5 位となった。昨年度と比べると、フェア・ディスクロージャーの低下が目立った。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、ESG の方針や中期経営計画の策定に当たり経営陣が投資家との対話の機会を設けていること、投資家の意見を経営に活かす姿勢があることを評価する声が寄せられた。また、「IR 部門の機能・基本スタンス」(第 2 位) も評価された。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等 (短信およびその付属資料を含む) における開示」が共に評価された。ただし、いずれも昨年度に比べ得点率をやや下げた。これらに関連して、説明や回答が丁寧であり、また、将来見通しを考えるための情報を十分に提供していることを評価する声や、説明会での経営陣の発言を IR 部門が的確にフォローしているとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」は同得点第 5 位となったが、80% 以上の得点率であった。これに関連して、フェア・ディスクロージャーの意識が高く、説明の可否の判断も的確との声があった。「アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項 (例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、自然災害の影響等) の開示が、迅速かつ十分であること」(同得点第 5 位) は、昨年度に比べ得点率が 10 ポイント下がった。なお、コロナ禍においてこそ、年度計画の開示や月次情報の適時の開示をしてほしいとの声があった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」が第 3 位となり、「役員報酬や政策保有株式等に係る経営方針を説明し、それらの情報を十分に開示していること」は第 5 位であった。これに関連して、政策保有株式の保有目的や、社外取締役の選任基準の説明が十分でないとの声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デー
や記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」が最も高い評価となり、第 2
位に 15 ポイント以上の差をつけた。これに関連して、コロナ禍においても施設見学会の機会を提供する姿勢
を評価する声が寄せられた。また、「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいる
こと」も第 2 位となった。これらの結果、この分野で第 1 位となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められ
るので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 セガサミーホールディングス（総合評価点 75.6 点〔昨年度比－1.4 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、**コーポレート・ガバナンス関連**が第 1 位（77%）、**経営陣の IR 姿勢等**（80%）、**フェア・ディスクロー
ジャー**（80%）が第 2 位、**自主的情報開示**が第 5 位（63%）、**説明会等**が同得点第 5 位（75%）となった。
昨年度と比べると、**フェア・ディスクロージャー**、**コーポレート・ガバナンス関連**の上昇が目立つ一方で、他の
3 分野は下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が最も高い評価となった。これに関連して、
IR 部門は経営陣の考えを的確に把握しておりディスカッションが有意義であるとの声や、投資家のニーズに対
して前向きに対応する姿勢を評価する声があった。また、「経営陣の IR 姿勢」も第 2 位となった。これに関連
して、経営トップは投資家との対話に意欲的であり、中期経営計画についても積極的に説明をしているとの声
が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が第 3 位となり、「説
明会、インタビューにおける開示」は同得点第 5 位となった。これらに関連して、説明資料が充実しており、
決算内容や計画が定量的に理解しやすいとの声のほか、各セグメントの KPI の設定や、コンテンツ事業の開示
内容を評価する声が寄せられた。なお、今後注力するゲーム事業の KPI のより充実を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状
況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」が最も高い評価となり、得点率
も昨年度に比べ、10 ポイント以上伸びた。また、「アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（例え
ば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変
更、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」（第 4 位）も、得点率が上がった。これ
らの結果、この分野において第 2 位となった（昨年度第 13 位）。なお、コロナ禍による影響の見通しについて
の開示を評価する声があった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資
金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」および「役員報酬や政策保有株式等
に係る経営方針を説明し、それらの情報を十分に開示していること」が共に、同得点第 1 位となった。これら
の結果、この分野において第 1 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デー
や記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」（同得点第 6 位）および「非
財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいること」（第 6 位）が共に、昨年度に比
べて得点率を下げた。

第 3 位 バンダイナムコホールディングス（総合評価点 73.4 点〔昨年度比－1.4 点〕、昨年度第 4 位）

- ① 同社は、**コーポレート・ガバナンス関連**（77%）、**自主的情報開示**（74%）が第 2 位、**経営陣の IR 姿勢等**が
第 6 位（73%）、**説明会等**が第 7 位（73%）、**フェア・ディスクロージャー**が第 14 位（69%）となった。昨年
度に比べると、**コーポレート・ガバナンス関連**、**自主的情報開示**を除く 3 分野で得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 5 位となった。これに関連して、経営陣の企業価
値向上に向けた姿勢を評価する声や、IR 担当取締役の取材対応を評価する声が寄せられた。なお、「IR 部門の
機能、基本スタンス」は第 11 位で、平均得点率と同程度であった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が同得点第 5 位となり、「説明資料等（短信お
よびその付属資料を含む）における開示」が第 9 位となった。いずれの項目も昨年度に比べ得点率を下げた結

果、この分野において第 7 位となった（昨年度同得点第 3 位）。これらに関連して、質疑応答が的確との声が寄せられた一方、トイとゲームの KPI の充実を望む声もあった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」（同得点第 11 位）および「アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」（同得点第 12 位）が共に、平均得点率に達しなかった。特に、後者は第 1 位と 20 ポイント差がついた。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」が同得点第 1 位となり、「役員報酬や政策保有株式等に係る経営方針を説明し、それらの情報を十分に開示していること」が第 3 位となった。これらの結果、この分野において第 2 位となり、第 1 位とは僅差であった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」が第 2 位となり、「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいること」も第 3 位となった。これらの結果、この分野において第 2 位となった。これらに関連して、自社だけでなく、業界全体の情報を発信する姿勢を評価する声が寄せられた。また、内容が充実していたものとして、「動くガンダム」見学会、統合報告書が挙げられた。

以 上

2021年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (広告・メディア・エンタテインメント)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
			評価項目2 (配点 35点)		評価項目2 (配点 25点)		評価項目2 (配点 10点)		評価項目2 (配点 15点)		評価項目2 (配点 15点)		
1	4661 オリエンタルランド	79.4	29.2	1	20.0	1	7.4	5	10.4	5	12.4	1	1
2	6460 セガサミーホールディングス	75.6	27.9	2	18.7	5	8.0	2	11.6	1	9.4	5	2
3	7832 バンダイナムコホールディングス	73.4	25.7	6	18.2	7	6.9	14	11.5	2	11.1	2	4
4	7974 任天堂	72.9	27.0	3	18.7	5	7.6	3	9.9	6	9.7	4	6
5	3635 コーエーテックモホールディングス	71.2	26.3	4	19.4	2	7.0	13	9.8	7	8.7	8	8
6	2433 博報堂DYホールディングス	70.0	25.6	7	19.0	4	7.3	6	9.3	10	8.8	7	3
7	4324 電通グループ	68.8	25.9	5	16.4	12	7.3	6	10.5	4	8.7	8	7
8	9697 カブコン	68.1	24.7	8	17.9	8	7.2	8	9.4	9	8.9	6	5
9	6098 リクルートホールディングス	67.5	21.0	16	19.4	2	5.8	21	10.6	3	10.7	3	10
10	9468 KADOKAWA	66.1	23.7	9	17.9	8	7.2	8	8.6	11	8.7	8	
11	9603 エイチ・アイ・エス	62.9	21.3	13	17.7	10	7.5	4	9.7	8	6.7	15	11
12	9766 コナミホールディングス	60.1	21.0	16	16.7	11	6.5	19	8.0	15	7.9	11	15
13	3659 ネクソン	59.6	22.5	11	15.6	13	6.6	17	8.1	14	6.8	14	12
14	9413 テレビ東京ホールディングス	58.9	22.3	12	14.3	18	8.3	1	7.7	17	6.3	16	
15	9401 TBSホールディングス	58.7	22.8	10	14.2	19	7.1	12	8.5	12	6.1	17	18
16	3765 ガンホー・オンライン・エンターテイメント	57.9	20.8	18	15.3	14	6.4	20	7.5	18	7.9	11	
17	9684 スクウェア・エニックス・ホールディングス	57.7	21.1	15	14.1	20	6.6	17	8.5	12	7.4	13	9
18	9404 日本テレビホールディングス	56.1	21.2	14	15.3	14	6.8	15	7.4	19	5.4	20	13
19	9409 テレビ朝日ホールディングス	56.0	20.5	19	14.9	17	7.2	8	7.8	16	5.6	19	17
20	9602 東宝	54.0	19.9	20	15.1	16	7.2	8	6.0	21	5.8	18	14
21	4676 フジ・メディア・ホールディングス	51.2	18.9	21	13.3	21	6.7	16	7.3	20	5.0	21	16
	評価対象企業評価平均点	64.08	23.30		16.76		7.07		8.95		8.00		

2021年度評価項目および配点(広告・メディア・エンタテインメント)

【評価期間：2020年7月～2021年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (35点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (25点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・説明資料等（決算説明資料を含む）で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業のKPI等）の実績および見通しは、ウェブ等を活用し、十分かつ継続性を持って開示されていますか。また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすくかつ十分に記載されていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー (10点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(2)タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	5
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (15点)	配点
(1)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか。	8
(2)政策保有株式等に係る情報の開示	
・役員報酬や政策保有株式等に係る経営方針を説明し、それらの情報を十分に開示していますか。	7
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (15点)	配点
①会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。【過去1年間を目安に評価】【充実していたサービスないし施設・設備名をコメント欄に記入して下さい】	7
②非財務情報（ESG情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいますか。	8

広告・メディア・エンタテインメント専門部会委員

部 会 長	前田 栄二	SMBC 日興証券
部会長代理	城戸 謙治	アセットマネジメント One
	石原 太郎	大和証券
	大場 剛平	野村アセットマネジメント
	岸本 晃知	みずほ証券
	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	山村 淳子	シティグループ証券

評価実施アナリスト（33名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	山藤 秀明	QUICK
石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	白崎 辰五	りそなアセットマネジメント
石井 孝一郎	三菱 UFJ 信託銀行	鈴木 崇生	大和証券
石橋 剛	三井住友 DS アセットマネジメント	寺島 正	大和アセットマネジメント
石原 太郎	大和証券	中島 智也	丸三証券
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	永田 和子	QUICK
大浦 裕太	第一生命保険	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	宝水 裕圭里	東海東京調査センター
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券	前田 栄二	SMBC 日興証券
岸本 晃知	みずほ証券	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
城戸 謙治	アセットマネジメント One	宮原 直也	第一生命保険
栗田 敦史	大和アセットマネジメント	村上 宏俊	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
栗原 智也	東海東京調査センター	森 はるか	JP モルガン証券
小山 武史	みずほ証券	森田 正司	岡三証券
佐相 兼呂	三井住友トラスト・アセットマネジメント	安田 秀樹	エース経済研究所
佐藤 啓吾	ニッセイ アセット マネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。